

マツゲン箕島 健闘に大声援

強豪NTT東に0-6

第49回社会人野球日本選手権大会(毎日新聞社、日本野球連盟主催)で、マツゲン箕島硬式野球部は29日、開幕試合でNTT東日本(関東・東京)と対戦し、0-6で敗れた。4大会ぶり7回目の出

社会人野球選手権 日本選手権

1回戦

社会人野球チームとして強豪企業チームに挑んだ選手たちに、スタンドから温かい拍手と声援が送られた。【加藤敦久、来住哲司】

NTT東日本

マツゲン箕島硬式野球部

0000000000
20003010X6



【マツゲン箕島-NTT東日本】三回表マツゲン箕島1死、白井が安打を放つ—西村剛撮影

(23)は初回から速球が

めてだが、精いっぱい「応援する」と張り切っていた。一方、チームを支援する「松源」は和歌山や大阪などでスパーマーケットを展開する企業。社員や取引先関係者らがおそろいの赤いシャツ姿で声援を送った。

150キロを記録するなど気合十分。だが、変化球の制球が甘く、一回に2点を奪われた。父善弘さん(56)は「立ち上がりには落ち着きがない」と心配そうでも、座っていられずに通路近くで仁王立ち。「粘ってほしい」と願ったが、

その後も追加点を奪われ五回途中で降板した。西川忠宏監督(63)は試合後、「奥田は闘争心を前に出す投手なのに、のまれている感じがしたと悔やんだ。打線もなかなか走者が出ない。ようやく三回に8番打者の白井光輝選手(26)が右前にチーム初安打を放った。

それでもスタンドは好プレーに何度も盛り上がり、見守った有田市の玉木久登市長は「ナイスゲーム。次につながる試合だった」とたたえた。



—豊側スタンドで赤いスティックバルーンを手にマツゲン箕島を応援する人たち
—いづれも大阪市の京セラドーム大阪で

紙面編集 在原 幸子

母基子さん(55)は「これが最後の大会。他の選手が打てない中、息子が打ってよかった」とほっとした様子。その後も得点圏に走者が進む場面もあったが、決定打が出なかった。2015年にもNTT東日本に初戦で敗れていたが雪辱はならなかった。

悲願の1勝後輩に託す

「打者の動きを見ながら配球を考えた。捕手として、的を絞らせないリードに工夫をしたが、甘い球を確実に打ち返された。それでも三回、「課題にし

て鍛えた」という一塁送球で盗塁を刺すなど意地も見せた。主将2年目を迎えた約1年前に、2024年シーズンでの引退をチームに伝達。だが、

藤田幸永主将(25)



—松田雄亮撮影

「練習前の掃除に手を抜かない」「練習でもあとひと踏ん張り」など妥協しないことを常に求めた。「選手意識が変わり、全国大会につながった。この日も、劣勢でもあきらめない姿勢が随所に貫かれた。京都府の福知山成美

本人は「勝ると信じてやってきたので悔しいと話したが、「若いチームなので、この試合での課題や結果を来年につなげてほしい」と後を託していた。

高時代は逸材ぞろいの「藤田3兄弟」として知られ、今は同僚の希和さん(23)はこの試合で1番打者として好打を披露した。スタンドで見守った父智さん(50)と母菊さん(49)は「最後が大舞台でやり残したことはないだろう。兄弟出場が見られたいのも感激」と喜んで